日刊工業新聞 1999年(平成11年)8月2日 月曜日

「痛い」など 視線操作で音声表示

重度身障者に対応
パソコン用システムを開発

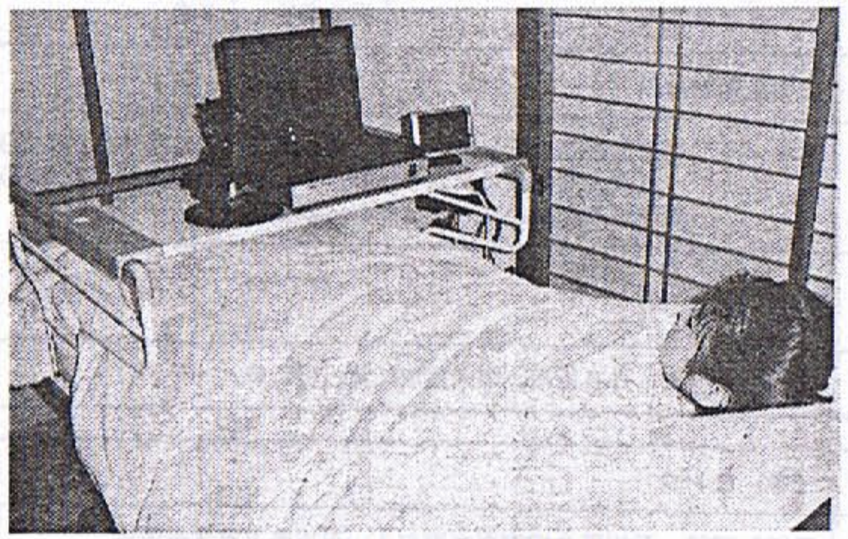
【浜松】テクノワークス（静岡県浜松市助信町529、椋本浩二社長、053・476・1553）は、寝たきりで言葉までも失った重度の身体障害者が、パソコン画面上の言葉を見つめるだけで、装置が本人の代わりに音声で表すシステムを開発した。本人が感じる痛みや不快感など多くの意思をすぐに音声にできるほか、文字表示での日常会話もできる。近親者の介護人でも大変だったコミュニケーションを大幅に改善できる。

この製品は「自立支援型介護システム TE-9100」。ベッドの中の本人から見える1メートル程度の距離に置くだけでいい。本人の体にはいっさい何も付けず、機器に触れなくてもいいため、装置の違和感がない。

システムはCCDカメラで、障害者がどこを見ているか眼球の動きを撮影。本人がパソコン画面上にある「痛い」などの定型の文書を見ると、その位置を割り出して、本人がまばたきをすれば、マウスのクリックと同じ"確認"と判断して、その言葉を音声にする。

「痛い」などの感覚は、頭や首、背中、足など部位を指定して言い分けることができるほか、いろいろなあいさつや欲求、非常コールを定型文書として設定、音声にできる。さらに視線とまばたきだけで、ひらがなで48文字までの文書をつくることができる。障害のある人が眼鏡をかけていても、利用できる。

システム価格は病院など法人向けが300万円で、個人向けは100万円。全国市町村の日常生活用具給付対象品に指定済みで、給付対象の個人は給付金以外の残額を5年間の分割支払いもできる。

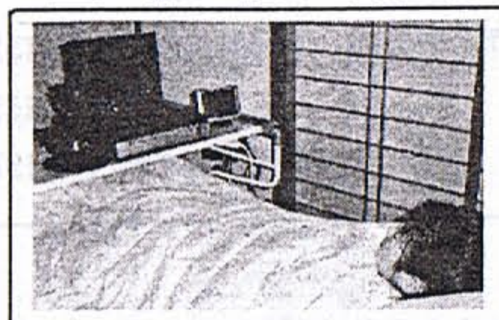


視線とまばたきで、ひらがな48文字まで文書作成できる音声表示装置

日経産業新聞 1999年(平成11年)8月4日(水曜日)

テクノワークス

目の動きで意志伝えるシステム
限定で低価格販売



障害者向け機器開発のテクノワークス（静岡県浜松市、椋本浩二社長）は、目の動きを利用して意志を伝達するシステムの販売促進のため、今月から三カ月間、自宅で療養している人を対象に通常価格の三分の一に当たる百万円で百システムを限定販売する。システムをより広く知ってもらい普及につなげる狙い。

「TE-9100自立支援型介護システム」＝写真＝は、パソコンと接続して使う。パソコン画面に表示されるあいさつなどの定型文をまばたきや注視によって選択して、音声出力するほか、文字を次々と選び出してワープロのように文章を作成できる。

今月から三カ月間、筋ジストロフィー患者、高齢者など自宅で療養している百人に対し、一セット百万円で販売するほか、分割払いも受け付ける。障害の程度により、自治体から最高五十万円の給付が受けられる。五十万円の給付を受け、五年ローンを組み合わせれば、利用者の負担は月八千円強ですむ。